



ダンゴムシのえさは何なにがよいの

キュウリ、キャベツ、イモなど何なんでもよい

ダンゴムシは、自然しぜんの中なかでは、こんちゆう虫しの死しがいや、くさきった木はの葉はなどを食たべています。
夜活動よるかつどうするので、飼かっているときも、昼ひるは、あまりえさを食たべません。

あまり新鮮しんせんな野菜やさいより、少すこしくさりかけて、キュウリなど、切り口きりぐちがやわらかくなっすたものが好きすなようです。

ニンジン、ダイコン、レタス、ホウレンソウ、ナス、サツマイモ、スイカ、リンゴ、ミカン、やわらかい野草やそうのクローバーなど、何なんでも食たべます。かたいツバキの葉はなどは、苦手にがてのようです。

水気みずけをすって、やわらかくなっすたダンボールや、新聞紙しんぶんしまで食たべます。

口くちの中なかには、ひげがある

ダンゴムシは、えさを前まえの方ほうにある足あしでつかむようにして、口くちをもぐもぐさせながら食たべます。顕微鏡けんびきようで、ダンゴムシの頭あたまの部分ぶぶんをみしてみました。口くちは、大きながま口おおぐちのような形かたちをしていて、大きなあごをもっています。口くちの中なかには、ひげのようなものが、生はえているのが見みえます。また、このひげのようなものが、どんな役目やくめをしているのかは、はっきりわかっていません。

食たべたえさは、4～5時間じかんすると、ふんになって体からだの外そとに出でてきます。

(監修・中山 周平)

